



間伐でCO2削減を

答 積極的に取り組む

問

藤原 陽三

して搬出間伐、作業道などの整備をし、間伐材や未利用材の有効活用を積極的に取り組む

極的に取り組み林業振興につなげたい。

企業の間で石炭や重油に代わりCO₂を出さない木質チップが脚光を浴び、山に眠る資源をいかに生かすかが課題である。町活性化に取り組む考えは。

答

副町長

持続的な林業経営、地球温暖化など環境面からも間伐などによる森林整備の推進を図り、生産される木材の有効活用が重要な課題である。

燃料用チップの主原料である建築廃材が不足する一方で、日本では大量の間伐材が未利用のまま放置され、木材の利活用はヨーロッパなどに比べ遅れている。森の工場などを中心と



山の間伐で雇用の促進と地球温暖化防止を図れ。(大引割)

鳥獣被害

出来る限りの対策を

答

報奨金を増額して対

問

藤原

猪や猿などの被害による被害が多い。恵まれた自然に囲まれ、笑顔で過ごせる日々のために町は努力すべきでは。

答

町長

町内でここ数年、猪、猿、カラスなどの農作物への被害が増加している。本年度から防護ネット・波トタンなどの助成を実施し、本議会に有害鳥獣報奨金の補正予算を提案した。猿は1万円を3万円に、猪は狩猟期間を除いて1万円を2万円に、鹿は1万円を2万円に、その他の鳥獣も、1千円を2千円にそれぞれ増額し、鳥獣保護員、猟友会の協力で被害の軽減・防

駆除単価 旧表

区 分	単位	報奨金	備 考
イノシシ	1 頭	10,000円	狩猟期間中に駆除した場合は、支給しない。
サル又はシカ	1 頭	10,000円	
その他の鳥獣	1 個体	1,000円	

駆除単価 新表 (H21.4.1～適用)

区 分	単位	報奨金	備 考
イノシシ	1 頭	20,000円	狩猟期間中に駆除した場合は、支給しない。
サル	1 頭	30,000円	
シカ	1 頭	20,000円	
その他の鳥獣	1 個体	2,000円	

下記表に変更

止にできる限り対応したい。



当選したら何をする

答 自然と伝統文化を生かして

問

大原儀郎

副町長は次期町長選挙に立候補するに当り、仁淀川町の将来にどのような構想をもって臨まれるか。

若者定住

若い人たちの生活が成り立ち安心して子育てができ、定住できる対策は。

答

副町長

本町は条件的にも不利な地域だが、町にはすばらしい自然、伝統文化、すぐれた知識や技術が豊富で人情がある。こうした資源や特性を生かした自然と共生する魅力・活力あるまちづくりを目指す。

幼児教育の充実と効率化、保育料の軽減、6ヶ月児保育、中学校卒業までの医療費の無料化、高校生の通学費の支援など、子育て環境の充実を目指す。

(株) フードプランの

ような新しい業種での雇用拡大など、本町ならではの産業の構築に努めた



安心して子育てできる環境づくりは若者定住に欠かせない (名野川保育所)

森の活用

問

大原

本町は約3万ヘクタールの植林があり、伐期に達している。建築材とし

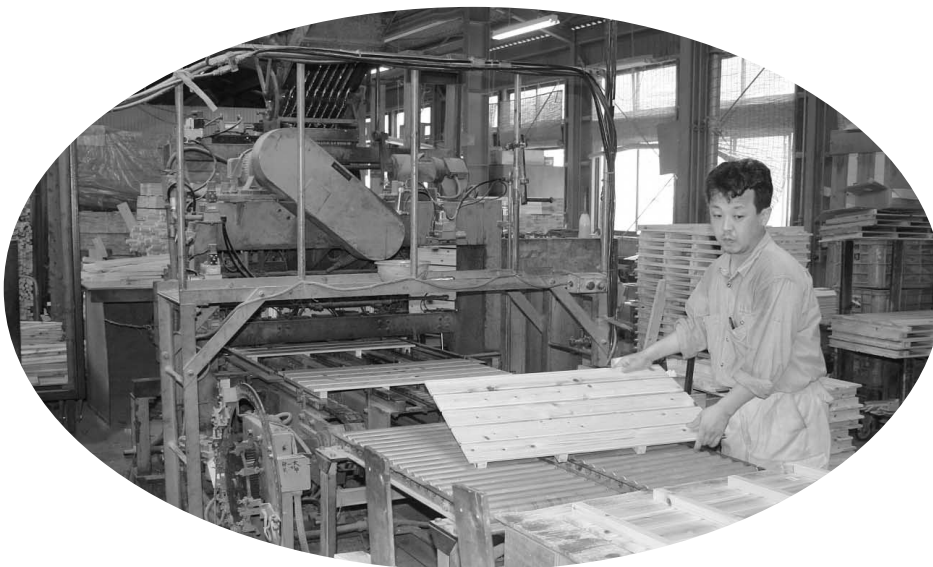
ては望めないが、環境にかかる産業は社会の脚光を浴びている。産出される大量の木材と、木質エネルギーやカーボンオフセットなど、先端産業として取り入れ

答

副町長

森林の活用こそが本町の最大の課題だ。現状は材価低迷、後継者不足などで大変な事になる。最近、環境資源としての価値が大きく見直され、バイオマスエネルギーやカ

ーボンオフセットの対象として新しい分野で展開も始まっている。木材産業に取り組むため、森林組合や町内の関係企業と協議し、国や県の助言や助成を受け、本町の産業を検討していく。



繁忙期には55人を雇用し、地域に貢献している (有) 池川木材 (見ノ越) すのこを作っている作業現場を写さしてもらいました。

農 業 対 策

問 大 原

中山間地での農業対策は。

自然茶の復活、ヨモギやドクダミ、ワラビ、ゼンマイなどの栽培、山には多くの有望植物がある。取り組み方で一大産業の可能性はあるのでは。

答 副町長

自然茶の見直しや健康志向、安全志向が強まった今、高冷地の自然を活用し中山間地の特性と採算性の高い作物を選定し、本町ならではの農業の確立を目指す。



清流トマト（一ノ谷）

教 育

問 大 原

学校運営は子どもが減っては成り立たない。本町で子育てをしたいと全国から注目され、家族が来てくれる町づくりを。

答 副町長

教育は将来を担う人づくりとして重要で、本町は児童の激変、教育ニーズの多様化への対応が急務になっている。

学習指導要領にも生命や自然を大切に、伝統文化の尊重が盛り込まれている。町にはこれらにふさわしい環境が整っている。地域に愛着が持てる教育を進めたい。



プールびらき（6月30日・長者保育所）



高 齢 者 対 策

問 大 原

お年寄りが、ここに生まれ、住んでよかった、という地域づくり対策は。

答 副町長

本町は2人に1人が65才以上の高齢者で社会の活力を維持するためには、永年培った知識や経験を生かし、担い手として高齢者が活躍することが重要と考える。年令に関係なく意欲と能力がある限り働くことのできる社会を実現したい。



「和気あいあい」グループホームよりあい（岩丸）



地域商品券

一人でも多くの人に

答 協議して

問

農本規仁

池川は1時間、吾川・仁淀は2時間で完売した、プレミア付地域商品券は大変関心が高く、商工業者にとっても時期を得た発売であったと思うが、早々の売り切れで、買いたくても買えなかった人も多い。

公金を投じる以上、一人でも多くの人が購入できるような、助言なり協議しているか。

答

副町長

一世帯平均購入4万3000円、465世帯が購入し、好評で、追加発行の予算を計上した。

販売方法は、今回を参考に商工会に企画課が助言しながら良い方法を検討している。



吾川地区の販売は集落センター前で行われた。(大崎)

問

農本

池川・仁淀商工会は手狭で希望者の安全面を考えると、町の施設での販売も可能か。

答

企画課長

施設が空いていれば可能と考える。商工会と協議し進めていく。

太陽光発電を奨励しては

答 国に呼応して町も取り組む

問

農本

国は、地球温暖化防止のため、自然エネルギーの強制的な買い上げを、26円から50円へ。また、



太陽光を設置して5年が経過した片岡好男郎 (名野川)

答

副町長

公共施設への太陽光発電設備義務化などの政策が言われている。

町内5.2KWの施設で5400KW年間発電しており、4施設あれば発電所になり得る。

避難所などにも有効と考えられ、国の補助事業など積極的に取り組むべきと考えるが。

国に呼応し、温暖化防止に向け町も取り組む。

太陽光発電は管理費負担も予想されるので、一カ所モデル的に導入し、成果を見ながら、国、県の有利な事業も勘案し検討したい。



何から手をつけるか

答 地域経済の活性化が急務

施 策 は

問 岡田良成

最初に行う施策は何か。

答 副町長

課題は山積しており、地域経済の活性化が緊急な課題で、地域の特性を生かし行政に取り組んでいく。

ソ ニ ア

問 岡 田

行政で改めることはないか、無駄はないか。ソニアは平成9年に15億円の基金で創立、基金が底を突くのは時間の問題だ。思い切った対策を考えるべきでは。

答 副町長

行政手法など、特に大きく改める必要はない。社会情勢に対応できる柔

軟かつ効率的な行政の推進が必要と考える。

ソニアの存在は将来的に重要な会社だと思う。

赤字経営で、大変厳しく、現在取締役で対策を考えている。若者定住、雇用の場、所得の確保の面で波及効果もあると考える。

町外流出への対応策

問 岡 田

過疎化対策で、若者が町外に流出しているが対策は。

住宅家賃は3万5000円以上は町が補助するべきで地方交付税、税収、地域の活性化につながる。

答 副町長

過疎化の抑制は非常に困難で、定住する人に何らかの支援が必要と思う。子育て、通学、生活環境、町内の木材を使って住宅を建てる場合は一定の支援が必要だ。

企業的センス

問 岡 田

町の行政、将来のビジョンについて、和の政治も大事だが、行革の一端をたどるために勇気を持って企業のセンスで汗をかき、取り組むべきでは。

答 副町長

希望を持ち、信頼される町行政を確立し、官民一体の地域づくりを推進。企業的センスで改革に取り組む、実態を把握し、行政に反映したい。



15億を投資した(株)ソニアの復活は可能か。(佐川)